

《福井市の公民館に思う》



魅力いっぱいの福井を全国へ

前中央公民館館長 平馬 吉隆

隔年で日本総合研究所が実施している『都道府県幸福度ランキング』において、福井県は2014年以來3回連続で総合1位になっています。主な要因として、学校・社会・雇用領域において1位を維持していることが挙げられます。このうち社会領域では、一人当たりの社会教育費と千人当たりの社会教育学級・講座数が上位を維持しています。学校領域がトップレベルだということがことさら強調されていますが、実は社会領域もトップレベルなのです。このことから、福井県は子どもから大人まで学ぶことのできる環境が整っているといえます。

また、東洋経済新報社が実施している『住みよさランキング2019』では812市区の中で福井市は4位となり、都道府県庁所在地に絞ると1位になっています。これは「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」の4つの視点から算出したものです。ところが、ブランド総合研究所が実施している『都道府県魅力度ランキング2019』では、順位は徐々に上がっているものの37位でした。これらの順位に一喜一憂するのではないですが、幸福度や住みよさに比べて魅力度の低さが目立っています。認知度や観光意欲度、産品購入意欲度の数値が低いことが主な要因のようです。貴重な名所旧跡、すばらしい自然、おいしい食べ物、強い自治意識など福井のいいところはたくさんありますが、残念ながら知られていないということです。

さて、中央公民館では、2016年から従来の社会教育事業を『ふくい中央みらいカレッジ』として整理し、各講座に従来の福井のよさや福井らしさに加え、新たな取組事例の紹介を取り入れるようにしました。また、地区公民館の協力により地区の特色ある事業を紹介する内容も組み入れています。そして、受講してもらった方々に福井の魅力等を再認識してもらうだけでなく、これらを広めるのに協力してもらうために、2017年から『福井のよさを広めよう！広めたいポイント帳』を始めました。

福井市には中央公民館と49の地区公民館があり、地区公民館はほぼ小学校区ごとに置かれ全国では珍しい半官半民という方式で運営されています。しかし、公民館運営をNPO法人や指定管理者に委託し収益を考慮する自治体が増え、あるいは社会教育法でいう公民館を取りやめ、いわゆるコミュニティセンターに移行する自治体も増えています。公民館が単なる貸館的施設になってきているからかもしれません。公民館の本来の目的は、地域住民が主体的に地域の課題に取り組むことができるよう働きかけることです。つまり、公民館は地域づくりの中核施設という役割をもっています。これを維持し続けているのが福井市の公民館です。だから、住民の地域を大切にしている意識がとても高いと思います。この立役者が公民館職員であり地域の社会教育関係者です。目には見えませんが、このことも人的財産という福井市の大きな魅力だと思います。

最後に、福井には福井の魅力として大いに自慢できることがたくさんあります。これらが積極的に発信され、より誇れる福井になり、幸せであることを実感できるようになることを望んでいます。